

平成 23 年 10 月 3 日

各位

会 社 名 株式会社市進ホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 下屋 俊裕
 (JASDAQ コード番号 4645)
 問合せ先 取締役統括本部副本部長 竹内 厚
 (TEL 047-335-2888)

平成 24 年 2 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 業 績 予 想 と の 差 異 に 関 す る お 知 ら せ

平成 23 年 4 月 15 日に公表いたしました平成 24 年 2 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (平成 23 年 3 月 1 日 から平成 23 年 8 月 31 日) の業績予想と実績に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 連結

平成 24 年 2 月 期 第 2 四 半 期 連 結 累 計 期 間 の 業 績 と の 差 異 (平成 23 年 3 月 1 日 ~平成 23 年 8 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株 当 たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	9,260	△93	△76	△493	△57 円 66 銭
今回実績値(B)	8,845	△171	△167	△226	△26 円 50 銭
増減額(B-A)	△414	△78	△91	266	—
増減率(%)	△4.5	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成 23 年 2 月 期 第 2 四 半 期)	9,358	△116	△99	△109	△12 円 75 銭

2. 差異の理由

売上高におきましては、第1四半期は「学びMAX」(集団授業・個別授業・映像授業・通信添削など選べる総合教育システム)の定着により、集団・個別・映像授業の全体生徒数は順調なスタートを切りましたが、3月 11 日に発生した東日本大震災後の消費マインドの低下などにより、新学期の入会や春期講習の集客は厳しい状況となりました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、第1四半期から学びMAXによるより柔軟な受講科目や受講方法の選択ができるよう単科受講制度を強化しました。また、ニーズの高い学校定期試験対策にも着目した各種講座を設定するなど、生徒一人ひとりが目的を達成できるようなサービスを提供することで、夏期講習や今後の集客増加に向けた対応を続けてまいりました。しかしながら、現段階におきましては、春先の集客の伸び悩みをカバーするには至らない状況となっております。

一方、経費面におきましては、広告宣伝費や人件費のみではなく、印刷費や消耗品などの細かな経費削減をさらに実施しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は 8,845 百万円(前年同四半期比 94.5%)となりました。その内訳は、集団売上高 6,364 百万円(前年同四半期比 88.8%)、個別売上高 1,519 百万円(前年同四半期比 110.1%)、映像売上高 831 百万円(前年同四半期比 121.6%)、その他 130 百万円(前年同四半期比 102.5%)であります。また、営業損失は 171 百万円(前年同四半期営業損失 116 百万円)、経常損失は 167 百万円(前年同四半期経常損失 99 百万円)、資産除去債務に関する会計基準の適用に伴う特別損失を 158 百万円計上した結果、四半期純損失は 226 百万円(前年同四半期純損失 109 百万円)となりました。四半期純損失が業績予想に比べ改善された主な理由は、資産除去債務に伴う特別損失などが予想を下回ったためであります。

なお、春先の集客が予定に届かなかった主に第1四半期会計期間の影響は、第3四半期以降の各種講座設定、ウイングネット加盟校・個太郎塾一般FC教室の加盟予定等、また、経費の更なる削減などにより解消できるものと見込んでおり、通期業績予想につきましては、前回発表予想に変更はありません。

(注)上記に記載した予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上